



南洋旅行記

西崎生

遙か南極に於いて世界各るダイバー達(潜水夫)も、
海を相手に海軍日本の意氣最盛三三三(潜水夫)の現
を見て居る捕鯨船が海の金を掘つて一年中の三ヶ
王座を目指して躍進しつゝ、月の休暇を今こそ命の洗濯
あるは日本水産界の前途期はかりとバラボラ島
々たるものがある、同じくに入港して来る、そして数
人知れず、南進日本の前衛隊のダイバーと乗組員達
は現に二十噸程の小舟にての大津はコロール町に繰出
敢然として、英、蘭を仰いで大津の豪遊を箱
に廻し、ニューギニアの南方浮世の不景氣も何處吹く
赤道直下のアラフラ海に於て風と俗化したランキ騒ぎ
いて水産日本の氣概を見せの満ちたランキ騒ぎ
居るのだ、外ならぬダイバー達の御入來と待
パボット、彼等は何をして居るに花柳街は二百
居るか?七寶の光を放つ、眞人の藝者、酌婦を總動員し
珠貝(白蝶貝)の採取で居るが何しろ一年中海上
で秘められた寶庫を押し開く、二ヶ月と女を買占め
れた天賦である、特筆すべしは英國、和蘭の外國船
の潜水夫も全部日本人である、之を經濟的に打診
して見るに彼等の手に依り、上げられる真珠貝は、年一
搜當り六〇噸平均に及ぶ、其れは時價にして一噸平均
一十圓はするだらう、故に一搜のダイバーで六七
萬圓の海寶を上げる、之等のダイバーは約百隻に
及び新造船一搜進んで約四萬圓として一年の航海で
つて倍に經費を拂つて船の代價を支拂へる譯で、そ
して次年度より純然たる收益として六、七萬圓が轉
げ込むのである、従つて海神の秘と恐ろしい潜水病水

埃机偶語

悦夫生

英雄はその天賦は詩人で、
ある。例へば豊臣秀吉の朝花との關聯を描くものだ
鮮征伐、西郷隆盛の城山戦
殺、ナポレオンのセントヘ
レナ島流刑など、彼ら
は、その生涯を以て詩を
たのた、だからその人物

新妻久満男選

平 騷生

去る秋の一日大久村各地礦泉に無事
故打合せを開き詠める歌
○大久の各地の湯宿に會開く、深山の紅葉秋
けき日に
○次々と會進進む、山宿の、隙子に秋の陽は輝
へる
○深山の幸、併せてひたに食ふ各地の湯宿の松
茸の味
○節貞の坂を下り來り、茸茸の、背にあふれ
る、秋の光り
○底ひなき不動の瀧の深水に、見入りてしばし
物を忘れぬ
○多少の修業正して置いたが、概念的に歌もたし
し詩味のあるものがある。歌の才は認め得るが
時勢過ぎては初期の歌に失敬する。

が大きいれば大きいほど、
の詩と獨特の氣味を放つ
○のうちの最も大きな一つ
である。主従の愛—これ
で、美しい詩は刺がある
などはずと後代になつて
の宿立から、街頭の艶歌
を驕逸した。當然過ぎる
と云ふやうだが、寂
資本主義の瀾漫は、世の
中から詩を失くす。その
一例—近時レコード會社
の宿立から、街頭の艶歌
を驕逸した。當然過ぎる
と云ふやうだが、寂

はるゝと 志磨 幸代
思出に酔ひつゝ、
唯一人あゝ唯一人
たどりゆく林の路を
愚問のそのかみの路
野路はるか思出もはるか
手をくみてなみだぐみつ
ゆきゆけば
夕がみ
離水をこめて
道邊の小籠のかけに
夕風は涼しそめにけり

妖刀流轉

邑井 吉演

「待てッ」
一聲、ぎよつとしたか
に起上つて、自分の方へ飛
か、つて來るのではないか
と思ふから、流石の權次だ
と、腹面黒装束立派な武士
がもう意地にも我後にも堪
らなかつた
幸ひ長屋の衆もあつた逃
げるのは此間かと思つたか
で、武、誰でもない、命は貫つ
た、往來へ出たが、誰も見
谷めた様子もない
やれ嬉しやともう恐ろ氣立
つてゐるから跡も見す
どん、逃出すと後方から
びた、びた、とついて
來るものがある
心の迷ひは知らないが、
それが何と伯父の死が、
靈が、その儘自分を追つて
來るとしか思はれません



「待てッ」
一聲、ぎよつとしたか
に起上つて、自分の方へ飛
か、つて來るのではないか
と思ふから、流石の權次だ
と、腹面黒装束立派な武士
がもう意地にも我後にも堪
らなかつた
幸ひ長屋の衆もあつた逃
げるのは此間かと思つたか
で、武、誰でもない、命は貫つ
た、往來へ出たが、誰も見
谷めた様子もない
やれ嬉しやともう恐ろ氣立
つてゐるから跡も見す
どん、逃出すと後方から
びた、びた、とついて
來るものがある
心の迷ひは知らないが、
それが何と伯父の死が、
靈が、その儘自分を追つて
來るとしか思はれません

いものは貴く、多いものは
卑しいといはれる、故に君
子は貴く小人は卑しと
27日 △曲垣平九郎騎馬で
月 受岩山の石段を登る
21(寛永一) △徳川
光國大日本史編纂に著手
(明暦三) △新撰組の前身
壬生組生(文久三) △東
京で最初の活動寫眞公開
(明治三〇)

「待てッ」
一聲、ぎよつとしたか
に起上つて、自分の方へ飛
か、つて來るのではないか
と思ふから、流石の權次だ
と、腹面黒装束立派な武士
がもう意地にも我後にも堪
らなかつた
幸ひ長屋の衆もあつた逃
げるのは此間かと思つたか
で、武、誰でもない、命は貫つ
た、往來へ出たが、誰も見
谷めた様子もない
やれ嬉しやともう恐ろ氣立
つてゐるから跡も見す
どん、逃出すと後方から
びた、びた、とついて
來るものがある
心の迷ひは知らないが、
それが何と伯父の死が、
靈が、その儘自分を追つて
來るとしか思はれません

夜
三陽
皮膚科
性病科
泌尿科
花柳病科
性病科
皮膚科
門
院
院
院

電話番號變更
五十嵐婦人科醫院
醫學博士五十嵐雄一
電話三六九番
阿部藥舖
舍大幸齋
比佐棟雄
桑原柔道整骨院
高久病院
木村外科醫院
靈峰羊羹

集募徒生
高柳醫院
耳鼻咽喉科
高柳博明
植田物産株式會社
植田物産錦出張所
高柳博明
藤田女學校

